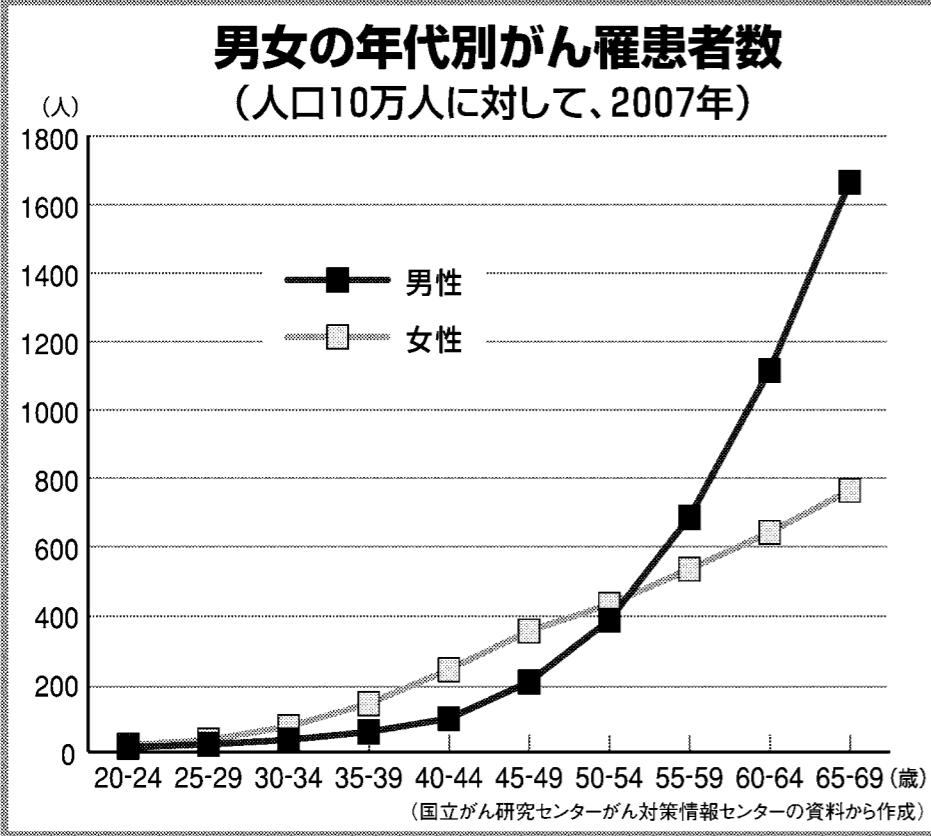


いま、企業に求められるがん対策

“人材リスクマネジメントが重要”

日本では、がんによる死者が年間約35万人にのぼる。こうした状況を食い止める有効な手段として、早期発見・治療のためのがん検診の受診が求められている。企業経営者が従業員に受診を促すことで“人材=人財”的損失を回避し、経営基盤の強化にもつながる。企業が従業員にがん検診の受診を啓発・促進する国家プロジェクト「がん検診

企業アクション」が厚生労働省の主導で2009年にスタートした。定年年齢の延長、女性の勤務体系の変化など、がん罹患率の上昇が懸念される。そこで企業経営者の取り組むべき課題などについて、企業アクションボードメンバーの座長である東京大学医学部附属病院放射線科の中川恵一准教授に、井水治博日刊工業新聞社社長が聞いた。



一方、30代女性の罹患率は男性の3倍です。30代後半から子育てがんの罹患率が急激に高まります。また、これまで女性のがん罹患率は低かったものの、男女雇用機会均等法による女性の活躍の場が広がったことで、女性従業者が罹患するリスクが増加しています。さらに、定年年齢が65歳まで延びるなど、

中川 恵一准教授
がんの原因を一言でいうと「細胞の老化」です。国民が長生きになります。また、生活習慣には高まります。また、生活習慣も大きく影響しています。がんの原因の3分の1はたばこです。喫煙率が高い男性の死率は女性の1.5倍です。

井水 業者として自分自身と社員の健康を守り、職場環境を整える必要があると痛感しました。果たしてがんの予防はできるのでしょうか。

中川 禁煙したり、飲酒を控え

るなど、生活習慣を改善すると、がんの早期発見ができる大きさ、1~2年で見つかるまで15~25年かかります。そのため毎年定期的に検診するといふ、早期発見の可能性を高めることができます。早期のがんは症状が出来ませんので、「異変を感じるまで病院に行かなくてよい

がん検診の受診率向上が急務

井水 人は誰しも、まさか自分だけがんにならないだろと思ってしまうがちです。そのためがんの予防はできるので、そのためにはがん検診を定期的に受けなければなりません。がん細胞にはがん検診を定期的に受けなければなりません。

中川 そう考えている方は多く多いのです。がん罹患率の55%は男性です。男性の2人に一人以上は大切ですが、だからといってがんにかられないわけではありません。完璧な予防策は残念ながらありません。しかし、がんを早期発見見つければ完治の可能性が高まります。

そのためにはがん検診を定期的に受けなければなりません。がん細胞にはがん検診を定期的に受けなければなりません。

中川 推進パートナー企業は、がん検診の小冊子やパンフレットの提供、ウェブサイトでの企業の取り組み紹介、シンポジウムの開催などでサポートします。

井水 企業アクション事務局は、がん検診の小冊子やパンフレットの提供、ウェブサイトでの企業の取り組み紹介、シンポジウムの開催などでサポートします。

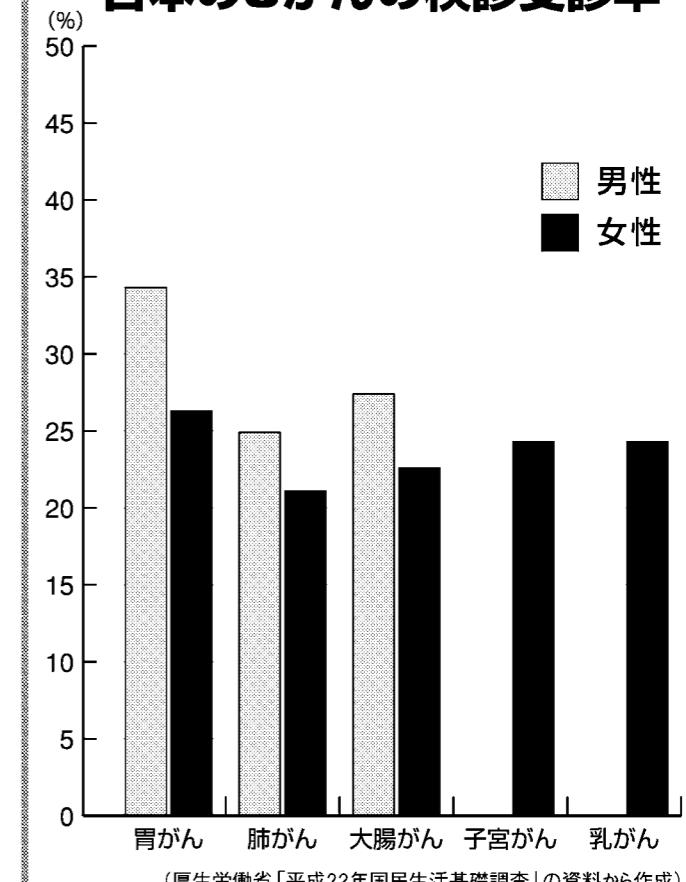


東京大学医学部附属病院 放射線科准教授
緩和ケア診療部長

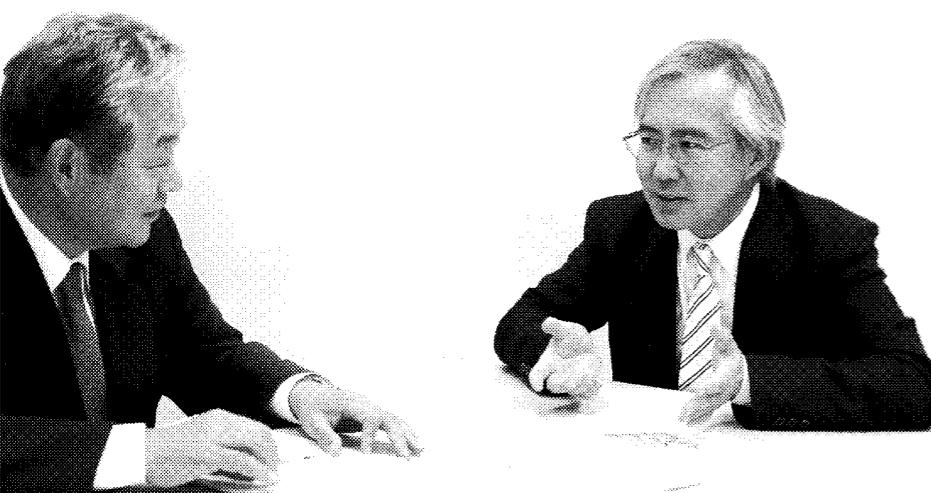
中川 恵一氏

なかがわ・けいいち 1985年東京大学医学部医学科卒業。スイスPaul Sherrer Institute客員研究員などを経て、現職。専門は放射線医学。主な著書に「がんの練習帳」(新潮社)、「死を忘れた日本人」(朝日出版社)など。

日本の5がんの検診受診率



がん検診企業アクションの詳しい情報はコチラ
<http://www.gankenshin50.go.jp/>



井水 経営者が検診を促すことで社員の健康を守り、結果的に企業経営の強化にもつながるといふことがあります。早期のがんは治療によって治ります。そのタイミングを逃してはいけません。

中川 もちろんできます。企業アクションの推進パートナーに参加できます。当社も企業アクションに取り組みが必要ということですね。例えば、当社も企業アクションに参加できます。

井水 ありがとうございます。がん検診の受診率は低いのが現状です。また、がん患者が増えれば、医療費が健康保険組合の財政を圧迫します。これからは女性のがん罹患率の増加も懸念されます。そのため、財政健全化の観点からもがん罹患率を低下させる必要があります。進行速度にもよりますが、早期のがんは治療によって治ります。そのタイミングを逃してはいけません。

中川 もちろんできます。企業アクションの推進パートナーに参加するには従業員数や事業分野などの条件も費用負担も一切ありません。人財を守ることはもちろん、企業の社会的責任(CSR)を果たすことが、がんによる死を防ぐうえでとても重要です。私はがんについて話すことは抵抗を感じています。

井水 経営者が検診を促すことで社員の健康を守り、結果的に企業経営の強化にもつながるといふことがあります。早期のがんは治療によって治ります。そのタイミングを逃してはいけません。